



都上りの詩篇 詩篇130篇

2013.1.30

詩130

ダニエルの祈り 9: と Ps130

1-2 叫ぶ。
3-4 不義を赦す神。 4. 赦しおとにも
5-6 主を待望
7-8 不義を贖う神。 7. 恵みおとにも。 贖いおとにも。

・ 守る。H8104 3. 不義に⁶返と⁶、5. 夜回りが朝と / Ps121 守る。Ps127 守る
・ 待望⁶ H3176 5. 待望⁶。7. 待望⁶。 / Ps131:3 待望⁶
・ 1. 深い所 (ヤミ) → 5. 朝と×2
・ 叫ぶと答える。Ps120:1 (Ps100-129 / Ps130-134 a エルサレムに出発し)

・ 聞いて赦してください。 9:19 (9:17, 18) / 聞き従わなかった(不面目)。
・ 私たちは罪を犯し、不義をなし、悪を行なった (9:15, 13)
・ あわれみと赦しは主のものである。(9:9)
→ 赦しがおなたとにもあるために (130:4)
・ 命令を守る者には、契約を定め、恵みを下す方。(9:4) → 130:3 目を留める、:6 夜回り(見張る)
→ 主には恵みがあり、豊か⁶は贖いがある (103:7) <08104> 121×6, 127
・ 幸いなることよ、⁶忍んで待ち... (12:12) → マタイ24:13
最後まで耐え忍ぶ者は救われぬ。

↓

ノロモノの祈り II 歴代誌6:
・ 聞いて、赦してください。

都上りの歌。 聖所に向かって祈る方。

詩篇130篇。130篇は罪を赦されるという言い方が書かれていますので、悔い改めの詩篇ということで研究されることが多いようですけれど、それよりも大切な文脈があると思われまます。

130篇は、都上りの3段落目。5つずつに分けた3段落目の初めの詩篇です。130篇から134篇までの出しになりますけれど、130篇の大切なキーワードは「主を待つ、待ち望む」。131篇も「主を待つ、今よりとこしえまで主を待て」という「主を待つ」と言い方で、130篇と131篇がまとめられると思います。

エルサレムが裁かれて廃墟となった。そのエルサレムが、もう一度建て上げられるということをも120篇からずっと歌ってきましたけれど、130篇からのところでは、その聖所が建て直されたところに、主が聖所に戻ってくる。これを待っている。主を待っているという時に、主が聖所に戻って来るのを待っているということが大切な130篇、131篇のテーマである。

130篇の主を待つということなのですけれど、1から2。ここで最初に「呼ぶと答えてください」。3と4のところに「不義を赦す神様」。5と6で「主を待ちます」。7と8で「不義を贖う神様」ということで、「祈りを聞いてください」「罪の赦し」、「主を待ちます」「赦しの神」という構造になっています。ABABというところがはっきりしている構造かと思ひます。

3節の不義に目を留めるところとなっているところは、不義を守る。夜回りが夜明けを待つのに勝りとなっていますけれど、夜明けを待つという待つという言葉は、特に入っていない。「夜回りが朝を」と言っているのですが、夜回りと言っているのは、守る者が朝を待つ。守る者というのと、不義に神様が目を留める、ここが守るという言い方になっていますので、121篇は守るがたくさんあります。それと127篇も主が町を守るとい

う、守るがありました。この守るというキーワードで、130篇が始まっているというところは、気を付けておかないといけないところだと思います。

待ち望むと待ちますという言葉がありますけれど5節の「みことばを待ちます」と、7節の「主を待て」。これが131篇の「イスラエルよとこしえまで主を待て」と同じ「待ち望む」という言葉になっています。それと「深い縁から」という、闇の中から救われることを願っていることと、6節の夜回りが、守る者が朝を待っているということで、闇の中から救われて朝が来るのを待っているというような対比になっているというふうに思われました。

それと「苦しみの中で呼ぶと聞いてください」という出だしのところは、120篇の都上りの詩篇の最初の出だしですね。「苦しみのうちに私が主に呼ばわると主は私に答えられた」という120篇の出だしと、130篇の出だし。ここは救いを求める神様の御恵みがあらわされるはずの救いですね。その救いのスタート地点としてエジプトからの救いもここから始まりましたけれど、130篇から129篇の出だし。130篇から134篇までの出だしが、同じ型で始まっているというところは、この都上りの詩篇の配列を見るためにも鍵になっているところだと思います。

この130篇は、神様がエルサレムに戻ってきてくださること、それを待っている詩篇だということをもっとはっきりと表すものとして、ダニエルの9章の祈りと一緒に見るように、キーワードがそれを指示しているしとなっているものだと思います。

ダニエルの祈りが元々あって、130篇を書いたというふうにも歴史的な順番としては思われますけれど、ダニエルの祈りに聞いて許してください。私たちは罪を犯し不義を成し悪を行なったの「不義」。憐れみと赦しとは主のものであるの「赦し」。命令を守る者には契約を守り、恵みをくださる方の「守る」という言い方。主には恵みがあり豊かな贖いがある「贖い」。幸いなことよその祈りに答えてくださることを待っているダニエルたちの最後のところですね。ダニエル書の12章のところで「幸いなことよ偲んで待ちなさい。最後まで耐え忍びなさい。」という言い方が、この「待つ」という言葉になっていますね。ですから、このダニエルの祈りとその背景になっているソロモンの祈り、「聞いて赦してください」の神殿を捧げた時の祈り。また、その祈りの成就として、イエス様が来られた時のザカリヤや、シメオンや、アンナの「エルサレムの贖いを待ち望む」ルカ福音書に書かれているところも連想し、130篇の「主を待つ」という信仰を歌う歌であるということを理解するのが大切だと思います。